

学年	教科	科目	教科書名	副教材名	単位数
高2 総進 SG	理科	物理	物理（数研出版）	ニューグローバル 物理（東京書籍）	4単位

1. 授業のねらい

- (1) 物理に関する専門的な知識を身につけ、科学的思考能力を身につける。
- (2) 大学受験を視野に入れ、基礎力・応用力を身につける。
- (3) 実験、演示実験、ビデオ・web教材などを通して、物理現象を観察し、その法則性の理解を深める。

2. 授業のすすめ方

教科書を中心に授業を行う。講義型に偏らず、ICT機器を用いた双方向の授業を展開する。
教科書・問題集・課題プリントなどの問題演習や、演示実験・ビデオ・web教材などを通して物理現象の観察を行うことで、内容の理解を深める。

3. 学習上の留意点

家庭学習の習慣を確立できるか否かで、身につけられる学習内容に大きな開きが生じる。この1年間を最も有意義なものにするために4月から家庭学習を行うこと。勉強方法については、友人や先生のアドバイスをもとに自分なりに工夫をして、試行錯誤を繰り返して身につけることが重要である。

- (1) 授業があったその日のうちにノートを見返して復習を行う。その際、用語・概念などといった重要事項についてはまとめ用ノートに転記するなど、自分なりの工夫を行うこと。
- (2) 問題集を考査直前に1回解く程度では、学力の定着は期待できない。授業の進行にそって、解ける問題から解いて行くようにする。特に間違えた問題は自分の弱点であるので、印をつけて考査までに解けるようにすること。何度取り組んでも分からない問題については、友達や先生に質問をすること。
- (3) 考査対策
授業を聞き家庭学習を行ってれば、考査対策は半分以上終わったと言える。
最後のまとめとして、ノートの見直しと解けなかった問題に再度取り組んで欲しい。
- (4) 進路選択
物理分野に関する進路情報を集め、研究を進めて進路選択に役立てて欲しい。

4. 副教材・参考文献

ニューグローバル物理（東京書籍）を使用する。
参考書（問題集）、スタディーサプリなどのweb教材を日々の授業の復習に活用して欲しい。
定期考査毎に問題集ノートを提出し、学習態度と理解度をチェックする。

5. 評価の視点・テスト・課題等

定期考査による学習の到達度（100点×5回）と平常点50点（提出物・授業態度・実験実習の取組み等）で年間を通して評価する。
また、「観点別学習状況の評価」を実施する。

6. 定期考査

定期考査は各回100点満点の問題で、1学期中間・期末、2学期中間・期末、3学期期末の5回実施する。

